

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

<1年生>

	学習の様子・課題	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名を文字として読むことは、ほぼ全員ができるようになりましたが、単語や文として捉えて読むことに課題が見られる場合があります。 平仮名を筆順に従い書くことや、促音や拗音、長音などの特殊音節の正しい表記の仕方などをくり返し指導して定着を図る必要があります。 自分の考えを話型に沿って話すことは概ねできています。聞く際には、何を聞くのかという観点をしっかりもたせる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読や読書、特殊音節の学習を継続して取り入れ、単語や文を捉えて正しい読み方を理解できるよう、指導していきます。 書写の学習に筆順を正しく捉え直すと共に、全員の児童が正しく鉛筆を持ち正しい表記ができるよう、ノートやプリントに書く際も意識させていきます。また、タブレットのアプリを活用し、筆順の確認や、漢字やカタカナ等を覚えるための手立てとします。 「はなしかた名人」「ききかた名人」などを掲示し、普段から視点を意識させるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間や宿題等で、MIM-PMの補助プリントを活用し、単語として文字を認識できるようにします。 つまずきのある児童には、学カパワーアップ講師と協力しながら、個別に指導にあたります。 対話の観点を明確にし、話し合う活動を多く取り入れて、話したり聞いたりすることに興味をもたせます。 家庭学習や授業時間に音読や読書を取り入れ、本を読むことを習慣化させます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10までのたし算やひき算は、全員が正しい答えを出すことができます。今後、手やブロックを使わずに計算ができるよう習熟させる必要があります。 文章題の学習では、文の意味を正しく理解して立式していけるように、具体的な手立てを準備していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物であるブロックの操作などを通して正しい答えを出せるようにし、何度も繰り返して習熟を図ります。 10でまとめる活動を多く取り入れ、「10といくつ」の考え方を身に付けさせていきます。 文章題の中の「分かっていること」「聞かれていること」などの大切な言葉に線を引かせたり、半具体物の操作などをさせたりして、正しく立式できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業中の短い時間、家庭学習を活用して、計算カード、プリント、タブレットなどを用いた練習を重ね、定着を図ります。 つまずきの見られる児童には、少人数担当教員、パワーアップ教員と協力しながら、個別指導に当たります。 問題解決型の学習も取り入れていきます。

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

＜2年生＞

	基礎基本調査等の結果から	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、文章の中で習った漢字を使うこと、片仮名を正しく用いることの指導を丁寧に行う必要があります。 物語文、説明文ともに、大事な語句や文を見付けて順序を捉える読み方を身に付ける指導に重点を置き、内容の大体を捉える力を伸ばすことが課題として見られます。 話し手が伝えていることを、最後まで考えながら聞くよう、繰り返し指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を用いて短文を作る活動を取り入れ、主述のつながりや言葉のつながりを特に意識させる指導を行います。 時間・順序に関する言葉や主述、表現に着目してサイドラインを引いたり、つながりの言葉や叙述に着目したりして文と文の関係や出来事・事柄の順序を正しく捉えるといった基本的な読み方を定着させていきます。 聞き取りの際に、観点を明確に示して意識して聞き取ることができるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読や書字に関して個別指導が必要な場合は、家庭と連携して継続して指導を続けていきます。 週末の日記を継続し、組み立てを意識して書いたり話したりすること、最後までよく聞いて考えを引き出す質問をすることを意識させていきます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の学習では、文の意味を正しく理解して、立式していけるように、具体的な手立てを準備していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を文末までしっかり読んで、題意を捉えさせること、資料の数値や凡例を確実に読みとることについて声かけや印付けで意識を向けさせ、常に題意を正確に掴むことができるよう習慣付けを行っていきます。 文章題の中の「分かっていること」「聞かれていること」に線を引かせたり、反具体物の操作をさせたりして、正しく立式できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 補充が必要な児童に対しては、少人数担当と連携し、必要な内容について繰り返し練習し、必要な知識の定着を図ります。 朝学習や、授業中の短い時間を使って、計算カード、プリント、タブレットなどを用いた練習を重ね、定着を図ります。

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

<3年生>

	基礎基本調査等の結果から（国語・算数）・ 学習の様子	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文については、登場人物の行動の理由を丁寧に読み取ることに課題が見られます。 説明文については、説明されている事柄を正しく読み取る力が十分でないため、事柄の順序に気をつけて正しく読み取ることに指導していく必要があります。また、文章の内容を短くまとめる指導も必要です。 自分の思いや考えが明確になるように文章を書く力を付けるために、継続的に自分の考えを書く機会を設ける必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習については、登場人物の気持ちの変化に対応した行動を授業でしっかりと押さえるようにします。書かれている言葉を表面上だけで考えるのではなく、なぜそのような気持ちになったのかの理由を叙述をもとに考える力を授業の中で付けていきます。 説明文は、順序に気をつけて書かれていることの大体を読み取ったり、段落ごとに小見出しをつけたりして、内容を短くまとめる活動を取り入れます。 いくつかの文章を関連付けて読む力をつけるために、朝学習等で練習問題に取り組みます。 自分の思いや考えを書く力を付けるために、書き方の例を示し、文章を書く練習を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で指導したポイントについて、家庭にも伝え、家庭でも読む力がついているか確認できるようにします。 週末に日記の宿題を取り入れ、自分の思いや考えを書くことができるようにします。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習の仕方を丁寧に指導する必要があります。 資料の読み取りや、用語の意味などが分かりにくい児童へのイメージしやすい教材や、視覚的な配慮など、指導の方法に工夫が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に見たり聞いたりする体験的な活動を通して学習を進めていきます。 授業の中に映像教材や、模型などの具体物を利用してイメージをやすくします。 見学の仕方や調べ方などの学び方や、まとめ方を丁寧に指導します。 様々な資料を用意し、読み取ったり、活用したりする機会を設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> 用語などの基礎知識は、プリントなどを用いて復習をします。 いろいろな学習のまとめ方を経験し、学習の仕方を身につかせます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能は身につけている児童が多いですが、分数の概念や図形の特徴などの定着が十分でない児童も見られるので、意識的に指導をしていく必要があります。 表やグラフに表したり、読み取ったりすることが苦手な児童が見受けられます。手順や間違えない方法を全体や個別に指導する必要があります。 文章問題に苦手意識をもっている児童がいるため、文の意味を理解して問題を解くことができるよう、具体的な手立てをしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決をする中で、自分の考えを伝えたり、友達の考えを取り入れたりする場面を設けます。また、視覚的な教材を使用したり、日常の会話の中で学習に関する語句や概念を取り入れたりすることで知識の定着を図ります。 表やグラフなどに表したり読み取ったりする問題を解くときは、手順やどこを見ればいいのかを視覚的にわかりやすくする教材の工夫をします。 最後まで文章を読む、大事な言葉に線を引くということを習慣付けるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントやドリル、ベーシックドリル等をこまめに取り入れ、繰り返し、基礎学力の定着を図ります。 つまずきの見られる児童には、少人数担当やパワーアップ講師と協力しながら個別指導に当たります。

<3年生>

	基礎基本調査等の結果から（国語・算数）・ 学習の様子	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 理科の学習の流れを丁寧に指導する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験道具に触れたり見たりする機会を多く設け、イメージをもたせたり扱い方の定着ができるようにします。 問題から結論までの見通しをもちやすくするために板書や指導の仕方を工夫する。 各自の考察などを共有し、話し合う時間を確保する。 実験が円滑に進むように決まりや約束を丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の問題解決型の学習の仕方を身につけさせるよう、丁寧に個別に指導していきます。 復習のプリントなどを活用して一人一人の知識の理解を確実なものにします。

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

<4年生>

	基礎基本調査等の結果から（国語・算数・理科） 学習の様子	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」と「意欲的に取り組むこと」に課題が見られます。 資料を読み取り考察をまとめることに課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」に関する単元において、児童の実態に合わせた課題設定をするとともに、書く時間を十分確保して「書くこと」への意欲を高めます。 資料を活用する単元において、資料の読み取り方を指導し、考察をまとめる学習を十分に行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に、日記などの家庭学習の課題を取り入れ、「書くこと」についての意欲を高めます。 総合的な学習の時間と連携し、調べたことを基に考察をまとめるようにします。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り方や、比較の仕方を身につけることが課題です。 自分の考えや得た情報を聞き手に分かりやすくまとめる力を伸ばすことに課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して資料の中に映像を取り入れたり、模型などの具体物を利用したりして、資料についてイメージをしやすくさせます。 情報をまとめる例を複数提示して、児童が自分にあっただものを選べるようにし、活動しやすくします。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを実際の生活でも感じられるよう、適宜話題にします。 国語科や総合的な学習の時間に行った調べ学習等とも関連付けて指導をしていきます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則演算の筆算の意味や考え方についての理解に課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則演算の筆算等についての単元を中心に、問題解決的な学習を通して児童の思考力・判断力・表現力を培います。また、式や筆算の意味や考え方について十分に指導を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習やフォローアップ教室での学習を通して、児童それぞれの実態に合わせた追加指導を行います。 問題について考察したことについて、数式を用いて表現ができるように発展的な指導を行います。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果から分かったことを記述することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、問題解決的な学習を進めるとともに、観察や実験の結果から考察する場面において、自分の考えをまとめる時間を確保する。また、友達と意見を交流しながらより良い考察ができるよう学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科・領域においても、自分の考えをまとめる時間を確保し、教科横断的に自分の考えをまとめる学習を行う。

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

<5年生>

	基礎基本調査等の結果から	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい漢字を書くこと・読むことに課題が見られません。 言葉の正しい意味・用法について課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間などを活用し、漢字の学習時間を確保します。 キーボードでの入力をする活動を取り入れる一方で、各単元の学習において漢字や語句の確認・復習の時間を取り、正しい用法や意味をノートに書いて身に付ける時間を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の読み合い、教師の添削などをもとに、児童自身が自分が書いた文章を校正し仕上げていけるように指導を続けます。 教師の指導のもとで対話型 AI なども活用し、自分の文章を見直す、校正する経験をさらに積ませます。
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表、写真などからわかったことを読み取ることにより課題が見られます。 分かった数値がどのようなことを意味しているか、なぜそうなるかということについて考察する経験が不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、「教科書の記述から読み取る」、「資料から読み取る」、「興味をもった内容を調べる」という作業を毎時取り入れ、資料読解の経験と読解した内容の共有を徹底します。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットだけでなく、図書やインタビューなど複数の資料を使って調べ考える習慣を身に付けさせます。また、情報の正確性について考える機会を作ります。教室にも調べ学習の基本的な仕方を掲示します。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 図形の問題における知識・公式に関する理解が不十分なため、その都度公式の確認をしたり、基礎的な問題を繰り返し解かせたりしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式の確認や複合図形の面積を求める方法など、面積の基本となる内容を毎週の算数タイムで復習し、知識の定着を図ります。 理解が十分でない児童に対して、具体物やデジタルコンテンツを活用し、感覚的にも理解を促進できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業支援アプリを活用し、様々な解法があることを児童同士で共有し、発想の幅を広げます。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「水のすがた」「自然の中の水」「もののあたたまり方」の理解が不十分であったため、生活体験や実験・観察を通して内容を理解させていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の少なさや学習での理解が不十分であったことが原因として考えられるので、家庭科など他教科とも連携させながら水の姿や温まり方の学習への理解を深めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との連携した指導や、5年で学習する物のとけ方の学習に繋げた学習を行います。

令和6年度 北区立第四岩淵小学校 授業改善推進プラン

<6年生>

	基礎基本調査等の結果から	授業改善のポイント	補充学習・発展学習
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正確な漢字を書くことに課題が見られます。 言葉の意味・用法について語彙が少なく、使い方にも課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の指導など文章を書く活動を通して、言葉を使う機会を多く取り入れます。 友達の作品や優れた文章を読み、それを参考にすることを通して文章表現の経験と言語の幅を広げていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、学習感想や実験のまとめなども文章として書かせ、文章を書くことの日常化を図ります。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図および図表からの読み取りと、どんなことを読み取る必要があるのかを問題文からつかむ経験がより必要です。 都道府県の位置や現象名等の基本的な知識も、定着が十分得るかどうかが定期的に確かめる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料から読み取ったことをまとめ、それを学級全体で共有し知識や表現方法を相互に高める活動を毎時間丁寧に行っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> わかったことをどのように表現するかについて優れた提出物の共有や例示によって伝え、的確な表現で自分の学習内容をまとめられる力を伸ばしていきます。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 公式や計算の順序・ルールに関する理解が苦手なため、公式の確認をしたり、基礎的な問題を定期的に練習させたりする必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式をもとに、どの公式を適用して問題を解くのかという解法を児童同士の教え合いを通して確認しながら練習したり、デジタル教材を活用して自主的に学習を進めたりするなど、基礎的な練習する時間を十分確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ（プログラミング）の体験を通して、算数で学習した基本的なルールで、表計算やグラフの作成ほか簡単なプログラミングなど多くのことができる体験をさせ、算数の楽しさを味わわせます。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「人のたんじょう」「植物」など生物的分野の理解が十分ではありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物に直接触れることを苦手とする児童も多いため、映像や観察方法の工夫などより対象に親しみやすい授業の工夫や、必要な知識のまとめを確実にするなど、毎授業で関心を高め知識を定着させるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や委員会活動など、生物や環境を扱う活動にも関連させて学習を行います。